

日本学術会議 地球惑星科学委員会 国際連携分科会 SCAR 小委員会  
(第25期・第2回) 議事要旨

1. 期日

令和3年9月14日(火) 16:30~18:10

2. 会場

遠隔会議 ZOOM Meeting (主催会場: 国立極地研究所)

3. 出席状況

出席者(委員名簿順): 中村卓司(委員長)、原田尚美、石井守、伊村智(副委員長)、榎本浩之、小山内康人、川村賢二、杉山慎、野木義史、橋田元(幹事)、道田豊、大野義一郎、柴田明穂、高橋晃周、中井直正

オブザーバ出席: 羽生栄(国土地理院)、小川豊(気象庁)、楠勝浩(海上保安庁)

4. 議題

(1) 経過報告

・中村委員長から、第25期第1回での議論を受けて、大野、柴田、高橋、中井の4名を委員として追加した経緯の説明があり、各新委員より専門分野およびSCARで担う役割等について紹介があった。

・中村委員長から、当小委員会の設置提案書、議事要旨の提出に関する委員長一任、委員間のメールアドレス共有に関して説明があった。

・中村委員長から資料1に基づいて、アジアから初となる韓国のKim新議長の就任、最新の組織、今後の研究総会・開催地・開催方式など、第36回SCAR代表者会議についての報告があった。

・日本学術会議主催の一般公開イベントであるフォーラム「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献—」(2021年2月15日オンライン開催)において、中村委員長が「巨大な氷の大陸から地球を観る—SCAR(南極研究科学委員会)の活動と日本の貢献—」と題する講演を行った。

・日本地球惑星科学連合2021年大会ユニオンセッション「1時間でわかる学術会議: 地球惑星科学分野の国際団体への支援」において、中村委員長がSCARの紹介を行った。

(2) 地球惑星科学分野大型研究計画への対応について

・中村委員長から資料2-1に基づき、マスタープラン2020のフォローアップと新規大型研究計画の創出に向けて行われた、地球惑星科学分野大型研究計画ヒアリング(2021年6月26日オンライン開催)の実施の経緯および対応状況について説明があった。

・ヒアリングを担当した野木委員から、従来は両極を対象としてきたが、今回は南極にフォ

ーカスした点など、資料2-2に基づきプレゼンテーションの概要報告があった。

・ヒアリングに対して寄せられたコメントは、多様かつ多数であり、今後どのようにマスタープランに反映させていくか、意見交換が行われた。

#### (3) 人文社会科学常設委員会・研究大会開催について

・柴田委員より、資料3に基づき、SCAR 人文社会科学常設委員会 (SC-HASS: Standing Committee on the Humanities and Social Sciences) 2021年研究大会 (2021年11月18日～19日ハイブリッド開催) について、同常設委員会ならびに研究大会の背景等について紹介があった。神戸大学・極域協力研究センターがホストとなり、90件近い発表が予定されており、南極人文社会科学の現状や特徴を世界に向けて発信することと同時に、ホスト国の一般市民にも広く研究内容を紹介するジャパンセッションも企画されている。

・この分野においては、COVID-19の影響や国際関係の大きな変化が、近年注目される研究トピックとなっていることなど、最新の動向に関して質疑応答が行われた。

#### (4) その他

・中村委員長から、国際委員会から「日本学術会議が加入している国際学術団体の活動状況に関する調査の実施」に関する依頼があり、SCAR 議長からのサポートレターなど、対応している旨の報告があった。